今市町地先下水道管破損事故に係る専門家委員会の概要

		第１回（R04.12.20）	事務局の対応（案）	第２回（R05.3初旬予定　）
原因究明		**事故原因の究明** 結果：腐食原因は、硫化水素に起因するもの 意見等：● 非満流箇所が危ないと捉えて対策を講じるべき ● 腐食危険推定箇所の緊急対策が必要	●破損管体調査を実施し事故原因を確定	●破損管体調査結果報告（事故原因の確定）
再発防止策	予防保全	**緊急性の高い取り組み** 結果：事故地点から吐出しマンホール区間は早急に調査 調査結果により、布設替え検討 意見等：● 調査は、鮮明なデジタルカメラで調査し、即修繕すべき ● 事故地点から上流の腐食危険推定箇所は満流・非満流調査が必要 ● ポンプは間欠運転をしているが、一日の中で下水が一時的にでも流れる場合は硫化水素による腐食は起きないものと推測される	●早急にカメラ調査実施 ●満流・非満流箇所の確認により調査箇所の特定 ●布設替えの位置の確定	●カメラ調査報告 ●調査箇所の報告 ●布設替えの位置の報告
		中長期的な視点での取り組み・①事務局４案 結果：事務局案の４案で大きな方向性を検討していく 意見等：● 当時、自然流下を採用されなかった理由を調査するべき ● 自然流下を採用するならば、２段ポンプも検討。また、6,500戸で口径450mmが必要かどうかも要検討。 ● ポンプのインバータ化は意味がない ● 実際の検討にあたっては、硫化水素のみならず、地震への耐震化対策や不明水への対策などを含めた検討になる ● 長期的な取り組みをどのようにするのかで中期的な取り組みの方向性も変わる可能性が高い	●事業認可等の資料確認（当時自然流下ではなく、圧送管が採用された理由） ●計画汚水量に対しての考え方の整理 ●耐震化や不明水を含めた検討	●大きな方向性の決定
		中長期的な視点での取り組み・②定期点検 結果：事務局案の通り進める 意見等：● ピグ洗浄による硫化物生成抑制効果は2週間程度であるとのことから、やっていないところも多く、下水が流れにくい場合を除いて、今後は実施しない（ストマネ手引き2016では約1週間程度との記載）	●ピグは次年度から実施しない	●点検計画の報告
	事後保全	**危機管理体制** 結果：職員の知識習得による危機管理意識の向上 外部関係機関との連携強化 意見等：● 事故事例を知っておけばもっと早く対応できたのではないか ● 事故は起きるという想定で、資材の確保や休日の対応等が必要 ● 広域化・共同化の議論の中で、今回のような事例も含めて資材が融通できるような仕組みを検討したい ● 大規模な工事の発注状況等は概要しかわからない ● 下水道は水道と比べストックの必要性の意識があまりないが、管のみならず設備のストックも視野に入れる必要がある	●職員の研修等事故事例の知識習得化の手法検討 ●県や民間企業とどの程度連携対応できるか検討（連携協定等）	●事故事例を共有化するための仕組みの報告 ●県や民間企業との資材融通や連携するための仕組みの報告